

大槌(岩手)の復興状況報告

AMDA 岡山で地元スタッフ



岩手県大槌町での支援活動について報告する元持さん(左)と佐々木さん

東日本大震災で自らも被災しながら、地元医療ボランティア・A

M D Aの活動に参加してきた現地スタッフ2人が14日、岡山市北区伊福町のAMDA本部を訪れ、会見した。一歩ずつ復興に向かう同町の現状や活動内容を報告した。

AMDAが昨年12

月、同町に開設した「健

康サポートセンター」

で活動する鍼灸師の佐

々木賀奈子さん(49)

と、運営に携わる元持

幸子さん(37)。元持さ

さんは「津波で建物が流

されたままの地域もある

が、一方で震災後に

種付けしたワカメが出

荷された」などと少し

ずつ復興する現地の状

況を紹介した。

佐々木さんは、仮設住宅で暮らす被災者から「生きることがつらい」と言われることもあると話し、「前向きになれるよう同センターの手芸や料理教室などへの参加を促していきたい。今後も心に寄り添う継続的な支援が必要」と訴えた。

AMDAは、同センターの運営や医師の派遣など、岩手、宮城県での支援活動を2014年まで継続する計画。(大江恵里奈)